

金が最初 1573 年に中瀬の八木川で発見された。それに続いて鉾山が発見され、1633 年までに町はおよそ 3,000 世帯と 8 つの寺院ができるまでふくれあがっていた。中瀬は政府にとって非常に重要な収入源であったので城下町と同じくらい厳重に警備され、3 カ所の門で出入りする通行の制御をしていた。アンチモンが後に発見され、中瀬鉾山はやがて日本で最大のアンチモン鉾石の資源地となった。

1969 年までに、アンチモンは採掘し続けるよりも生の鉾石を輸入する方が安くなってしまっていて、鉾山は閉鎖した。中瀬の人口は急激に減少した。江戸時代（1603-1867）の 8 つの寺院のうち 5 つが現存するが、人の住んでいる家はわずか 82 軒くらいしかない。しかしながら、アンチモンの精製は続き、今日の国内でのアンチモン製品の 7 割がまだ中瀬で作られている。

中瀬鉾山で採られたいくつかの美しい金属のサンプルが観光案内所に展示されている。見つけられた最も美しいものの一つは 626 グラムある石英と融合した自然金で、首都ワシントンのスミソニアン博物館に展示されている。